

彫刻には木、粘土、ブロンズ（青銅）など多種多様な素材が用いられます。本展示では、素材の特徴やそれがもたらす効果などに着目して作品を紹介します。

光を追求したフランス印象派絵画に関心をもったロツソは、彫刻にも同じく光の効果を取り込もうとしました。そのために用いたのが“蠟”です。やわらかな色彩で柔軟性に富む蠟は、繊細な光と陰のグラデーションを表現することに適しています。

マンズーは、枢機卿を数多く制作しています。本作品では堅牢で重厚感がある貴重な黒檀材が使われています。黒檀とピラミッド型に単純化された形態があいまって、一層厳かな雰囲気を漂わせています。

その他、金属、皮、木など様々な素材を用いたトルッピアーニの作品なども展示します。

作品それぞれに異なる素材が放つ彫刻の魅力をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	メダルド・ロツソ	1858～1928	病める子	1889	25.5×26.0×15.2	彫刻
2	ジャーコモ・マンズー	1908～1991	枢機卿座像	1981-82	109.5×66.9×56.6	彫刻
3	フランチェスコ・メッシーナ	1900～1995	女の大トルソ	1970	168.5×48.0×32.5	彫刻
4	ヴァレリアーノ・トルッピアーニ	1937～	ジョヴァンナ:処女にして殉教者	1982	199.5×173.0×71.0	彫刻
5	ヴァレリアーノ・トルッピアーニ	1937～	殉教者聖ジョヴァンナとオオハシと葉	1982	69.9×50.0	素描
6	ヴァレリアーノ・トルッピアーニ	1937～	狙いをつける	1977	69.9×49.9	素描